

# 教育に関する事務の管理及び執行の 状況の点検及び評価報告書について (平成30年度分)

長野市教育委員会

## 点検・評価の概要

点検・評価の根拠	地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第26条
点検・評価の目的	<ul style="list-style-type: none"><li>① 教育委員会は、毎年事務事業の取組状況について点検・評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進を図る。</li><li>② 点検・評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会へ提出するとともに、公表することにより市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政の推進を図る。</li></ul>
点検・評価の実施方法	<ul style="list-style-type: none"><li>① 第二次長野市教育振興基本計画の施策の体系に基づき、関係部局とも連携しながら点検・評価を行い、課題や今後の取組の方向性を明らかにする。</li><li>② 学識経験を有する者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検・評価を行う。</li><li>③ 結果を取りまとめた報告書を市議会に提出するとともに、市ホームページにおいて市民に公表する。</li></ul>

# 報告書の構成

1 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の概要（P1）

2 事務局・教育機関の所属ごとの主な事業の概要と評価（P2～10）

3 施策別の事務の点検・評価と今後の方向性（P12～55）

基本的方向1 次世代を担う子どもたちの「生きる力」の育成

1-1 子どもたちの「生きる力」を育成する教職員の力量の向上

1-2 乳幼児期からの段階に応じた教育の充実

1-3 安心・安全な教育環境の整備

1-4 一人一人を大切にする教育の推進

基本的方向2 地域に支えられ、親と子が共に学び育ち合う環境の充実

2-1 家庭・地域・学校の連携・協働による教育力の向上

2-2 地域が子どもの育ちを支える環境の充実

基本的方向3 生きがいを求め、社会に参画する力を高める学びの機会の充実

3-1 学びの機会を支える生涯学習環境の充実

3-2 豊かな生活につながる生涯学習の推進

基本的方向4 多彩な文化・スポーツ遺産を継承・創造し、全ての市民が享受できる文化力の向上

4-1 多彩な資源を生かした文化芸術・スポーツ創造環境の構築

4-2 国際交流・多文化共生の推進

4 前年度までの学識経験者の意見に対する取組（P56～58）

5 今年度の学識経験者の意見（P59～60）

## 成果のあった主な取組

取組名	実施状況	評 価
教職員の研修	第二期しなのきプランの3つの重点(確かな学力の育成、豊かな心の育成、基礎的な体力の育成)と深く関わる研修講座を「重点講座」として整理し、教職員に案内した。	研修目的を明確にするとともに、教育課題にも対応するよう精選したことで、研修講座が選択しやすくなり、受講者から好評価を得た。
新たな学びの場づくり	「活力ある学校づくり検討委員会」からの答申に示されている、子どもの育ちの発達段階を意識した「新たな学びの場」づくりが、各学校の実情に応じて進められるよう、各校を支援した。	学校間連携や異学年合同授業、小学校で一部教科担任制の導入が進んできている。また、新たな水泳学習が山王小学校で行われ、一部中学校で学年担任制の取組が試みられるなど、各学校において笑顔あふれる豊かな学びの場づくりが進められるようになってきた。
小・中学校クール化プロジェクト	夏の暑さ対策として、小・中学校普通教室への空調設備整備について検討を進めていたところ、国において臨時特例交付金が創設されたことから、12月に補正予算を計上し、事業の進捗を図った。	サウンディング型市場調査、各学校の温湿度調査、家庭用エアコンを試験的に設置して実証実験などを行い、整備方針を定めた。国の臨時特例交付金を活用し、今年夏までに30校の整備が完了した。今年度中には、さらに30校の整備を実施する予定である。
交流センターの設置	社会教育委員会議からの答申を受け、市立公民館について、住民の交流及び主体的な活動を促進し、地域の活性化及び住民福祉の増進につながる「交流センター」へ移行できるように、条例・規則を整備した。	条例・規則とともに「長野市交流センター管理運営マニュアル」を整備し、柳原、小田切、長沼、篠ノ井の4施設について、今年4月から交流センターとしての運用を開始した。

## 主な課題と今年度の取組

取組名	現況と課題	今年度の重点的な取組
教職員の研修	組織全体を幅広く見渡し、協力関係を作りながら後進の育成に取り組む、40歳代後半から50歳代の管理職以外の教職員を対象とした研修講座を充実させる必要がある。	学び続ける教職員を目指して、「キャリアステージに応じた研修体系」に基づき、同年代の教職員を対象とした研修講座を充実させるとともに、第二期しなのきプランにおける「3つの重点」と「2つの連携（学校間連携、地域・家庭・事業所との連携）」に関わる研修講座の更なる充実を図る。
活力ある学校づくり	「活力ある学校づくり検討委員会」答申や市議会「小・中学校の在り方調査研究特別委員会」委員長報告を受け、子どもにとって望ましい教育環境について全地区の住民自治協議会事務局へ説明し、このうち6学校区では保護者等との対話を始めることができた。	子どもたちのことを第一に考え、保護者との対話が最も大切な過程であることから、地区や学校の実情にも配慮しながら、引き続き各地区の未就学児及び小・中学校の保護者等との対話を進めていく。
小・中学校トイレ改修	小・中学校のトイレは老朽化が進行しており、汚い・臭い・暗いといったイメージである。また、ほとんどの家庭が洋式便器であるにもかかわらず、多くが和式便器である。そのため児童生徒、教職員の不満が大きいことから、早期のトイレ改修が望まれている。	それぞれのトイレについて、校舎の建築年数や改修履歴、利用頻度等を踏まえ、全面改修が必要か、整備内容を絞り込んだ改修とするのか検討を進め、整備の計画を進める。
旧文武学校・旧横田家住宅の保存整備	旧文武学校では、施設全体を休館し、弓術所等の保存修理工事を実施するとともに、松代観光・生涯学習の拠点施設として利活用を促進するための環境整備を行っている。また、旧横田家住宅でも施設を休館し、耐震補強及び茅葺屋根の葺替工事を行っている。	特に旧文武学校については、「見て、触れて、楽しく学べる藩校」をコンセプトとした展示設備の整備を行い、来年夏のオープンを目指す。

## 学識経験者の意見

- 点検・評価報告書に対し学識経験者からいただいた意見を記載した。
- 今年度の事業の実施に当たり可能なものはすぐに取り組み、それ以外は来年度以降の事業に生かすべく、今後検討する。

全体意見		3件
施策別の 今後の方向性に関する意見	1-1 子どもたちの「生きる力」を育成する教職員の力量の向上	3件
	1-2 乳幼児期からの段階に応じた教育の充実	2件
	1-3 安心・安全な教育環境の整備	2件
	1-4 一人一人を大切にする教育の推進	4件
	2-1 家庭・地域・学校の連携・協働による教育力の向上	1件
	3-1 学びの機会を支える生涯学習環境の充実	1件
	3-2 豊かな生活につながる生涯学習の推進	1件
	4-2 国際交流・多文化共生の推進	2件
		計 19件